

經濟時報及商況

◎經濟時報欄の新設に就て

小島 精 一

本月から従来の商況欄を擴張して、内外の注目すべき經濟上及商業上の題目を簡明に紹介し、又論評する事とした之は全く、鐵鋼業の技術と經濟との融合した知識を少しでも供給し度いと言ふ趣旨に外ならぬ。言ふ迄もなく、鐵鋼業は所謂大規模工業の最も典型的なものであるから、其企業の成功には特別の經濟上、商業上の知識が必要であり、單に製造技術を切り離して考へるだけでは其經營は物足らぬ點が起るに違ひない。夫れに、國際競争の壓迫が殊に強いのであるから、外國就中競争國の市況の情勢は絶えず注意を怠つてはならない。筆者思ふに、本邦の當業者は概して言ふと是等の用意に缺陷があるのではないだらうか。

本誌は本邦鐵鋼業の發展に貢献するためには、決して技術的研究を掲載するを以て能事終れりとするものではない。本欄の記事も亦諸君の高諭を待つて注目に價ひする様になる事を切に希望するのである。

◎米國好況の轉換期

大正十二年は前年度末以來の好況を繼いで米國鐵鋼業は非常に盛況を示した。銑鐵生産高は四十萬噸を超え、未曾有の記録を残した。製鋼高も四千五百萬噸に達した。之は大戦中の

最大記録年たる大正六年度に略ぼ同じ數量である。同國では大戦以來製鐵能力が驚く程激増したのであるが、夫れでも一昨年の十月から去年十月にかけては全能力で作業した。昨年度の全世界の製鋼量は概算して七千三百萬噸であるから米國丈けで其六割二分を産出した譯である。

然らば斯る大量の鐵は何に消費されたかと言ふに、鐵材としての輸出量は僅に二百萬噸弱であるから、殆ど全部内地加工工場に引渡され其處で處分されたのである。其根據からヴァンダーリップは尙ほ數年間米國は歐洲の狀勢に無關心に好況を支持し得るであらふと言ふて居る。そは後の事としてアイオン・エーッ誌に據ると昨年度の鋼材全消費量三千二百萬噸の配分量は、ざつと次の通りである。

- | | | | |
|-----------------------------------|------|---------------|------|
| 一、鐵道 <small>(車體、汽罐、車をも含む)</small> | 百萬噸 | 二、橋梁建築材 | 百萬噸 |
| 三、自動車 | 八、六〇 | 四、石油、瓦斯、水道、鑛山 | 四、八七 |
| 五、農業 | 三、四七 | 六、容器 | 三、三三 |
| 七、機械類 | 一、二〇 | 八、造船材 | 一、一〇 |
| 九、其他 | 〇、九四 | 輸出量 | 〇、三一 |
| | 五、八三 | | 一、九五 |

即ち鐵道需要のみで二割七分、之に建築材、自動車及び石油瓦斯、水道、鑛山の三種の需要を加へると全體の略ぼ三分二に當るのである。それ故今年度の景況を豫想する場合には主として是等の需要を眼目に置かねばならぬ。

夫れには、も一つ、是等の需要が如何なる種類の鐵鋼材を要求するかを心得て置かねばならぬ。全體を表にするはくどいから、上記の四種の需要の内譯を示すと次の通りである。

(單位千噸)

自動車用	鐵道用	石油、瓦斯、水道、鑛山用	建築用	總需要計
—	二、三〇〇	一一〇	—	二、七八五

板	一三〇	一、八四〇	八九五	五九〇	四、二八〇
型	四〇	一、〇五五	二〇五	一、四三五	三、四八〇
棒	一、六一〇	一、〇五〇	一六五	九九〇	五、八六〇
薄板 (鉄力用黒板 ナ含マズ)	一、〇三五	三四五	二三五	二三五	三、三三〇
鉄力板	—	—	一八〇	—	一、四二五
線	一三五	五五	四五	一〇五	二、六九〇
材	四〇	一三〇	一、三四〇	一、一六〇	三、八〇〇
管	—	—	—	—	—
筒	—	—	—	—	—
其他ニ數多ノ鋼材アレ共重要ナラザレバ略ス。	—	—	—	—	—

右にて主なる需要先と品目とが分つたから本年度の状況を豫想すると、概して何れも峠を越して下向しつゝあるのは争はれぬが、年頭手持ち注文高は何れも尙ほ大量ある故少くも上半期は生産高も相場も前年の水準を保つてあらふと言はれて居る。然し、既に農作物、石炭、化學品等は不況に襲はれて居る析柄として(米國にては農業界の景況が直に鐵工業に重大な影響を及ぼす事は此際觀過すべからざる事項である)先物注文は差加へられ、下半期から來年度に於て反動が著しく行はれるであらふ。設備の擴張を慎しむ警戒的言説が有力者の口に上つて居る。

實際に製鋼高は前年下半年期に入つてからは月毎に規則的に漸減し、四月には十六萬噸にて峠であり、十一月には十二萬噸に下つて居る。

◎米國に於ける最近の企業合同熱

戦後は英、獨、共に合同運動が盛んであるが就中米國では其企業集中の傾向が殊に著しい。筆者は此問題を稍詳論した文章を次號以後の論説欄に連載する豫定であるから、茲には其經過を略すが、此運動の急先鋒をなして居るは彼のシユワ

ツァ氏の率ゆるベスレーム製鋼會社である。同社は大戰中其軍器製造のために特に莫大なる利益を收めペンシルヴァニア製鋼所其他を買收して設備を擴大したが、殊に其合同計畫が世人の注視を惹いたのは一昨年(大正十一年)五月ラツカワナ製鋼所を合併し、續いて昨年ミッドヴェイル鋼鐵及大砲會社を併合し、キャンブリア會社の支配權をも掌中に收めた事である。之によつて同社は今やユ一・エス會社と同じく殆ど主要なる各種鐵鋼材の製造を營む外に造船、大砲製造會社としても全國第一の大會社となつた。其製鋼量は全國の一割五分(ユ一・エス會社は四割五分、兩社を合算すれば六割。三千萬噸を越ゆるのである)資本金は四億五千萬弗に達するであらふ。

ミッドヴェイル會社の社長コリーイがべ社と交渉の結果を株主總會で報告したる演説中次の一節があるは本邦の時局に對して他山の石となすに足る。

「我社では現在よりも製造量と製品の種類とを一層増大し配給組織を完全にする事が、製造費を節約し、販賣及經費を低下せしむるに緊要であり、且つ一層原料資源の擴大を計るのが製鋼業に於て最良の結果を收むるに缺くべからざる事を久しく痛切に感じて居た。今回當社をベスレーム會社に賣却する趣旨は全く此見界に従つた事である。」

堂々たるミッドヴェイル會社にして尙ほ且つ此言をなすとせば、知らず本邦當業者は我國の合同問題の現況を如何に考へるであらふか。

そは兎も角も、此問題に就て、も一つ、注目に價ひするは合同に對する米國政府の態度である。同國では一八九〇年に

取締法が實施され、之によつて大資本家の獨占行爲を禁止する方針であつたが、其適用に關しては兎角の批難を免れなかつた。近頃一般産業界に合同熱が横溢するに従つて、輿論の激勵によつて、取締法の適用も峻嚴になり、法規自體も數回變更せられた。彼の有名な獨占會社たるスタンダード石油會社の解散を命ずる頃から次第に此取締法が生きて來た様で、ユー・エス會社に對しても戦前から度々解散訴訟が提出された。ベスレヘム會社に對しても昨年一月以來聯邦商業委員の反對があり、近々、解散訴訟が提起せらるゝやに傳へられ同國財界の注視を集めて居る。

尙ほオハイオ州所在ヤングスタウン板及管會社は昨年度に於てブリア、ヒル製鋼所、及亞米利加鋼鐵及管會社 (S. and Tube Co. of Am.) の二大會社を合併し其結果全國第三位の製鋼會社となつた。

合同計畫は之に倣つて、他にも大會社間に行はれるであらふと言はれて居る。(以上三月九日稿)

◎米 國 市 況

二月下旬在紐約西商務官來電

米國財界は本年に入り引續き金の流入巨額に上り銀行準備潤澤にて債券市場賑ひ鐵鋼建築自動車等の特殊の工業依然繁忙其生産増加し依然好況を呈しつつあるも、其他一般商工界沈靜なり、殊に商況不活潑先行懸念せられ警戒躊躇の状態を持續しつつあり。

鐵鋼は本邦向依然閑散、内地向又弱氣に傾き白鋁物は相場強氣なるも賣行思はしからず。

銅は内外需要依然活況生産制限躊躇の傾向、十三仙四分の

三乃至八分の七。
海運界は玆馬英國間の砂糖儲船最活況又石炭方面も良好なるも穀類は依然閑散。

◎英國鐵鋼市況

二月二十二日在倫敦松山商務官來電

鐵鋼引續き沈靜月初めより噸一志方値下せるも爲替暴落に伴ふ大陸物競争激烈取引閑散クリブランド三號九十七志鋼鐵類は造船鐵道材料相當引合へるも大體沈靜輸出不振。

鉄力原料物の暴騰強調、需要は内地向好況輸出稍々不振最低賣値引上の議あり、亞鉛板内外の需要減退に引合閑散輸出は一般に不振なるも南米濠洲方面幾分買氣あり、日本向六十七枚物二十六磅五志見當ブラックスシートは東洋方面の注文激減にて市況沈靜相場安保合、日本向鐵板類は免稅期間内の積出終了にて商談一段落を告ぐ。

◎鋼材市況

鋼材類はベラック建築其他の工事に對し大體應急の手當を了したので昨今に於てはむしろ供給過剩の狀態に陥り夫に目下舊正關係にて地方より注文が杜絶したから取引は極めて閑散を呈するに至り且復興院及び民間當業者の輸入計畫を立てたものを合すれば海外への注文相當巨額に上つて居る此既約定品が今後漸次輸入されるのであるから先行市況は一層惡化すべきを氣違ひ相場は前報に比し一般に低落し丸棒五分物十錢安の五圓二十錢、角棒九分及一寸物三十錢安の五圓丸釘六分物五十錢安の十五圓五十錢、一寸六分乃至三寸二分物一圓安の十二圓、三寸六分物一圓安の十一圓亞鉛メッキ平板上等物一圓四十錢と五錢安、生子板六尺物一圓十八錢と十二錢安其他各品を通じて幾分の低落を示して居る。

